資料３

「第４次春日井市子ども読書活動推進計画」策定に係る本市の現状と課題

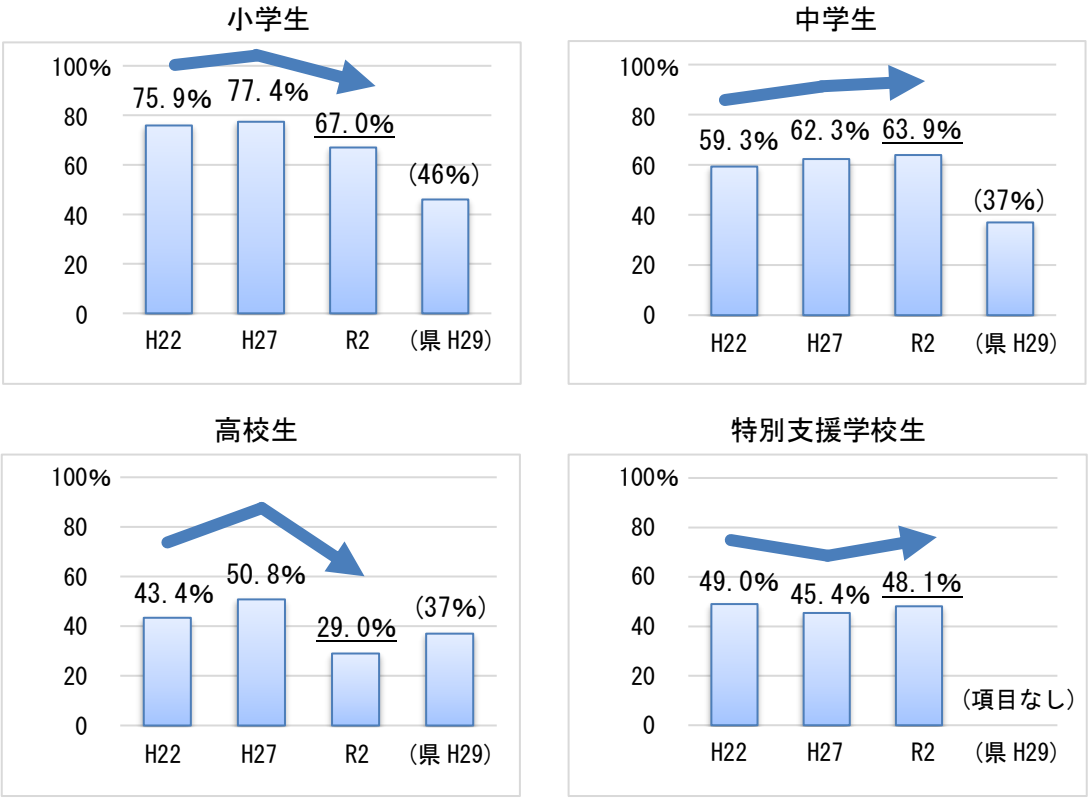
１　本市の読書を取り巻く現状

(1) 学校段階が進むにつれて読書離れが進む傾向にある。

読書の好き嫌いに対する設問では、読書を「好き」と答えた割合が、小学生で67.0%、中学生で63.9%、高校生で29.0%であり、学校段階が進むにつれて読書好きの割合は減少しています。また、特別支援学校生も含めた児童・生徒全体では57.0%で、前回(平成27年度)の調査と比較して、9.3ポイント減少しています。特に高校生の減少が顕著です。

なお、平成29年度に実施された愛知県子ども読書活動実態調査の結果と比べると、全体的に高い水準となっています。

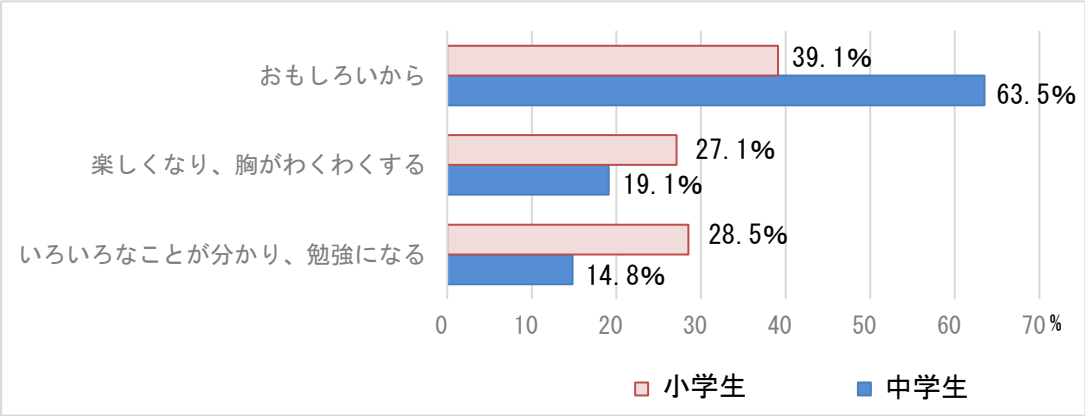
読書が好きな児童・生徒の割合の推移



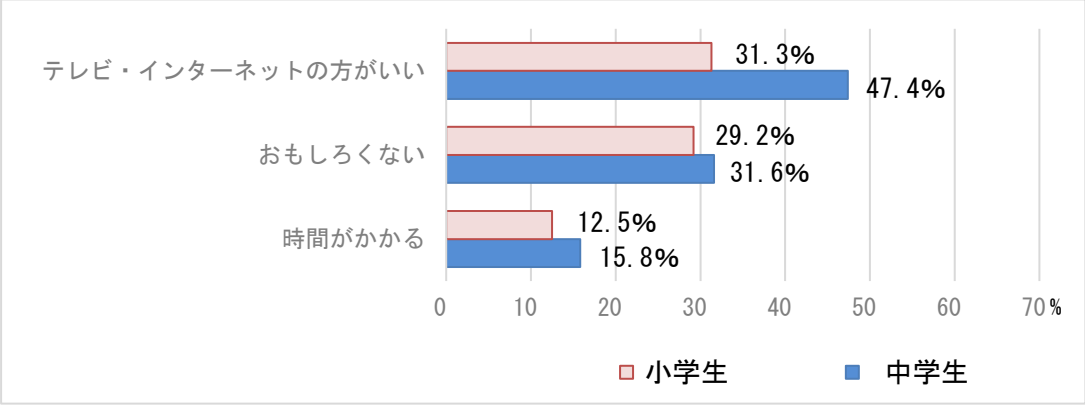
※　グラフの横軸は、アンケート調査の実施年度

読書を好きな理由では、小学生、中学生とも「おもしろいから」が最も多く、嫌いな理由では、小学生、中学生とも「テレビ・インターネットの方がいい」が最も多く回答がありました。

好きな理由の主なもの



嫌いな理由の主なもの



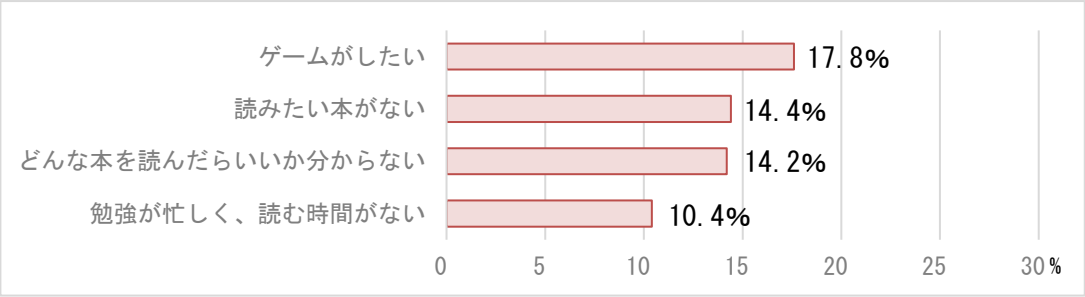
児童・生徒の令和２年５月の１か月間の読書冊数を見ると、小学生では11冊以上読む児童が23.8%で、前回より13.1ポイント減少しているとともに、「０冊(読まない)」の児童が12.3%と前回より9.9ポイント増加しています。これは、学校の臨時休校により、朝読書で本を読む機会がなくなったためと考えられます。また、中学生と高校生では、11冊以上読む生徒が、それぞれ5.0%(0.1ポイント減)、3.5%(3.3ポイント減)となっていますが、「０冊(読まない)」の生徒がそれぞれ、3.9%(4.1ポイント減)、45.4%(2.1ポイント減)と好転しています。

なお、学校段階が進むにつれて読書離れが進む傾向が伺えます。

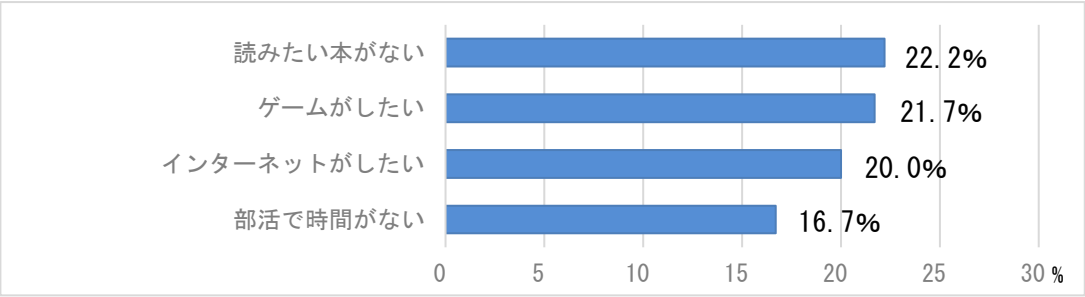
読書がしたくてもできない主な理由として、小学生では「ゲームがしたい」が17.8%、「読みたい本がない」が14.4%、中学生では「読みたい本がない」が22.2%、「ゲームがしたい」が21.7%となっており、読書以外に興味が移っていることが伺えます。また、小中学生とも、勉強や部活で忙しく、読書する時間がないことを挙げています。

読書をしたくてもできない主な理由

小学生

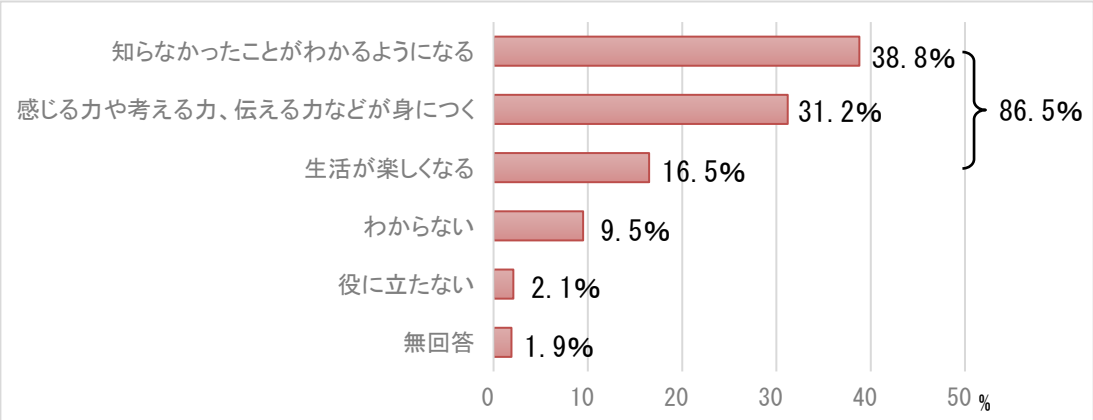


中学生



しかしながら、「本を読むことは何の役に立つと思いますか。」の設問には、児童・生徒全体で、「知らなかったことがわかるようになる」、「感じる力、伝える力などが身につく」、「生活が楽しくなる」との考えが全回答数の86.5%を占め、「わからない」、「役に立たない」を大きく上回っています。

本を読むことは何の役に立つと思いますか。



※　児童・生徒全体、複数回答があるため、回答数を 100%とする

また、どうすればもっと本が読まれるようになるかについては、小学生は「面白そうな本を紹介する」が32.7%、中学生は「本の値段を安くする」

31.7%、高校生は「１日の中で本を読む時間をつくる」29.9%が、最も多い回答となっており、いずれの学校段階の児童・生徒においても、読書が大切なことについては認識していると考えられます。

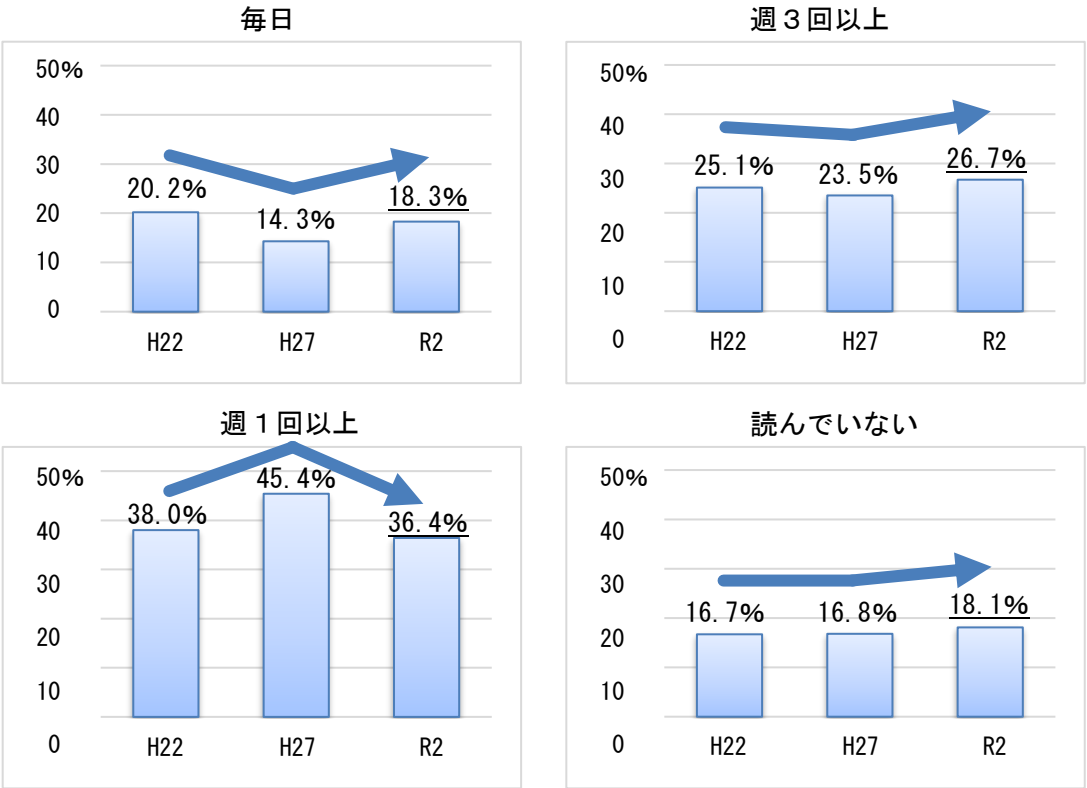
なお、スマートフォンやタブレットの普及に伴い、電子書籍を読みたいと思う児童・生徒が、小学生では53.4%、中学生では67.2%、高校生では58.4%と、いずれも過半数を超えています。

(2) 保護者が本を手に取りやすい環境の整備や、読書活動の意義について、さらなる啓発活動を推進していく必要がある。

「子どもが本を読むことや本に興味を持つことは、子どもの成長に必要か」との設問に、97.4%の保護者が「必要である」と回答しています。

これを反映してか、子どもに対して本を読む頻度は、「読んでいる」保護者の状況では、「毎日読む」が18.3%で、前回から4.0ポイントの増加、「１週間に３回以上読む」が26.7%で3.2ポイントの増加、「1週間に１回以上読む」が36.4%で9.0ポイントの減少となっており、前回と比較して、読む回数は増加傾向にあるものの、「読んでいない」が18.1%で、前回より1.3ポイント増加し、読む人と読まない人の差が広がっている傾向にあります。

子どもに本を読んであげたり、一緒に読んだりする割合の推移



※　グラフの横軸は、アンケート調査の実施年度

保護者の図書館・図書室の利用については、前回より回数が減少し、「利用したことがない」人は59.3%で前回より4.1ポイント増加となっています。

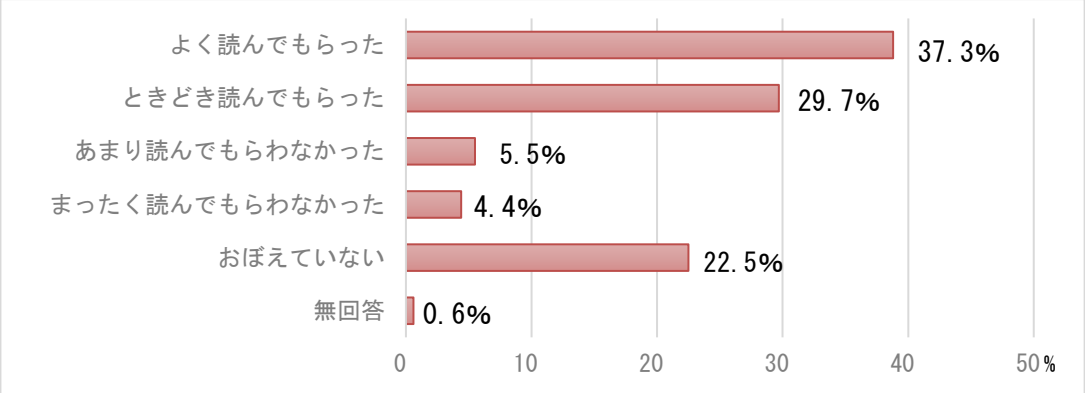
「紙芝居とお話を聞く会」の参加状況については、33.3%が参加したことがあると回答しており、前回より5.7ポイント増加しています。また、開催を知らない保護者は25.5%と前回より6.8ポイント減少しており、読み聞かせ会等の行事が徐々に周知されてきているものと考えます。

家庭での読書環境が、子どもの健やかな成長にとって大切であるという認識は醸成されつつありますが、読み聞かせ等を実践している保護者と実践していない保護者の差が広がっている傾向にあります。また、図書館が実施している事業への参加は増えてきているものの、図書館・図書室を利用するまでには至っていない状況です。

なお、「小さいころ、家で本を読んでもらったことがありますか」の設問には、児童・生徒全体で「よく読んでもらった」が37.3%、「ときどき読んでもらった」が29.7%となっており、本を読んでもらった経験のある児童・生徒が６割を超えています。

小さいころ、家で本を読んでもらったことがありますか。

児童・生徒全体



このうち「読書が好き」な児童・生徒は、小学生の73.9%、中学生の78.3%、高校生の59.7%、特別支援学校生の54.0%が「よく読んでもらった」「ときどき読んでもらった」と回答しており、小さいころの読み聞かせの経験が、成長過程で読書が好きになることに影響を与えていることも考えられます。

(3) 子どもにとって身近な施設である学校図書館の利用頻度が低い。

「学校図書館」の本の利用については、小学生では「自分の家の本」に次いで利用されていますが、中学生では「自分の家の本」「電子書籍」「図書館・図書室」「学級文庫」の次となります。高校生では学校図書館を利用しない生徒が88.7%、特別支援学校生では65.4%となっています。

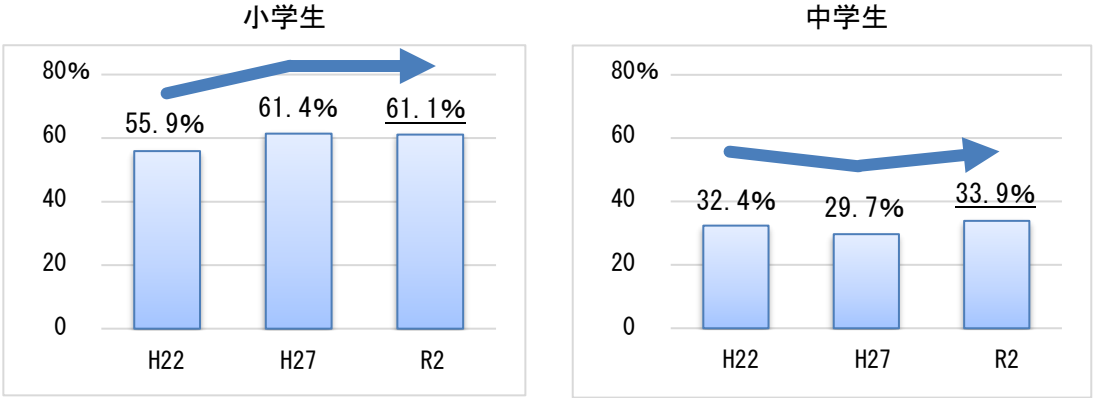
なお、高校生が学校図書館に希望することで最も多い回答は「もっといろいろな本を置く」で、55.4%となっています。

子どもにとって身近な存在である学校図書館においても、あまり利用されていない現状が伺われます。

(4) 図書館・図書室のサービスの充実が求められている。

市の図書館・図書室を利用している小学生は61.1%、中学生は33.9%、高校生は12.5%であり、小中学生はいずれも前回とほぼ同じで、学校段階が進むにつれて図書館を利用しなくなっています。

図書館・図書室を２～３か月に１回以上利用している割合



※　グラフの横軸は、アンケート調査の実施年度

※　高校生・特別支援学校生は、平成 22 年度・27 年度のアンケートに当該項目なし

このうち「読書が好き」な児童・生徒は、小学生の67.4%、中学生の37.4%、高校生の14.9%が２～３か月に１回以上図書館・図書室を利用していますが、「読書が嫌い」な児童・生徒では、小学生が35.4%、中学生が10.5%、高校生が7.9%となり、読書の好き嫌いによって、図書館・図書室の利用に差がありました。

しかし、「読書が好き」でも図書館・図書室を利用しない児童・生徒が、小学生で32.1%、中学生で62.6%、高校生で85.1%おり、読書が好きであっても図書館・図書室を利用しない児童・生徒が少なからずいることが伺われます。また、学校段階が進むにつれて図書館・図書室を利用しない傾

向が伺えます。

図書館に望む機能としては、小学生が「漫画やアニメがある」、中学生では、「休憩のとき、友達とのおしゃべりや飲み物を飲むことができるコーナーがある」、高校生では「勉強ができる部屋がある」が挙げられ、保護者からは、「親子で読める本の充実」、「オンラインでの読み聞かせ」、「表紙が見える棚」などが挙げられています。

⑸ 図書館と学校との連携や学校への支援が手薄になっている。

各学校では独自に読書活動を実施していますが、授業や学校行事等との兼ね合いもあり、小・中学校をとおして多数の学校で実施できている共通の活動は少ない傾向があります。特に、学校図書館の運営・活用に関するものについては、学校図書館ボランティアとの打ち合わせの時間が取れないことなどにより、運営や活用方法の検討に十分に携われず、実施ができていない学校が多い状況となっています。

また、図書館が「調べ学習」への支援をしていることを認識していない学校もありました。

⑹ 図書館ボランティアへの支援、子育て活動関係ＮＰＯ法人との連携が弱い。

図書館ボランティアについては、新しい取組への意欲はあるものの、活動内容等の周知がされていない、活動機会がない、会員が増えない等の課題があります。

また、子育て活動関係ＮＰＯ法人においては、読書は子どもの発達において重要と認識しており、読み聞かせをはじめとする読書活動を積極的に実施していますが、図書館の利用をはじめ、お互いに接点があまりなく、有効な連携がされていない状況です。

２　第４次春日井市子ども読書活動推進計画に向けた課題

⑴　読書離れへの対応

全ての児童・生徒が、学校段階が進んでも読書が大切であるという意識を持っていることから、読書が好きという気持ちを継続できるよう、読書習慣の定着と読書時間を確保できる環境づくりへの取り組みが必要です。

また、情報化の進展に合わせ、電子書籍など新たな読書ツールの研究が必要です。

【方策】

〇家庭・学校での読書習慣の確立（施策１・３）
〇年齢に応じた事業開催（施策１・４・５）
〇読書の楽しさを啓発（施策１・２・３・４）
〇電子書籍についての研究（施策５）

⑵　保護者が本を手に取りやすい図書館の環境整備や読書活動の啓発の推進

家庭の読書環境は、子どもの健やかな成長に大きな影響を与えることとなるため、保護者が子どもの幼いころからの読書活動の重要性を認識した上で、家庭における読書習慣の形成が重要です。

【方策】

〇子育て世代を対象にした読書啓発（施策１・５）
〇親子で読める本の充実（施策５）
〇家庭での読み聞かせの推進（施策１）

⑶　学校図書館の利用促進

子どもにとって身近な存在である学校図書館において、少しでも読書や本に興味を持つことができれば、読書に対するモチベーションの向上が期待できます。そのため、学校図書館の環境をより充実させることが重要です。

【方策】

〇学校図書館の環境づくり（施策６）
〇魅力的な図書の整備（施策６）
〇学校図書館ボランティアとの協働（施策３・６）

⑷ 図書館・図書室のサービスの充実

図書館に興味を持ってもらい、小・中・高校生、また子育て世代に至るまで、継続的に図書館に足を運んでもらうため、施設内の整備やイベントの開催などを含むサービスの充実が重要です。

【方策】

○図書資料の充実（施策５）

○「こどもの読書週間」「読書週間」にちなんだイベントの開催（施策２・４）

○子どもや子育て世代向けコーナーの充実（施策５）

⑸ 図書館と学校との連携や学校への支援の充実

図書館が実施している学校への支援内容をきめ細かく周知するとともに、学校での調べ学習や読書活動がしやすいように図書館と連携していく必要があります。

【方策】

○学校図書館と図書館との定期的な意見交換（施策６・７）

○図書館からの積極的な情報提供（施策３・４・７）

○調べ学習に関する支援の充実（施策３）

⑹ 図書館ボランティアへの活動支援・子育て活動関係ＮＰＯ法人との連携

図書館ボランティアの活動が活性化するよう必要な支援を実施するとともに、子育て活動関係ＮＰＯ法人とも連携して、子ども読書活動を推進していく必要があります。

【方策】

○図書館ボランティアの養成や支援、定期的な意見交換（施策４）

○子育て活動関係ＮＰＯ法人との情報交換（施策４）

○図書館からの積極的な情報提供（施策２・４）

○読書推進活動に対する支援の充実（施策２）

３　課題解消に向けた方向性

第４次計画では、第３次計画で目標とした子ども読書活動推進の取組を引き継ぐとともに、これまでの取組の中で見えてきた課題や、計画期間中の社会情勢の進展に伴う「新しい課題」に取り組み、また、「愛知県子供読書活動推進計画（第四次）」の基本目標「家庭、地域、学校等における取組の充実」「子供読書活動推進支援の一層の充実」を踏まえ、子どもが自主的、継続的に読書活動を行うことができるよう、家庭、地域、学校、市図書館が一体となって、読書に親しむきっかけ作りや読書環境の整備の推進・充実を図っていくこととします。